

「やさしい日本語」新聞書き換え講座

学校名 兵庫県立伊川谷高等学校 校長 曾谷 功
教諭 福田 浩三

1 はじめに

新聞を身近に感じる機会が少なくなった近年、新聞を教材として活用することは生徒の

- ・情報を整理し理解する能力
- ・効率よく効果的に情報を発信する能力

の学習につながり、これからのグローバル化・情報化社会に必要なコミュニケーション能力の獲得につながるものである。

本校では以前より NIE 実践に取り組んでいたが、NIE 実践指定校となるにあたり、これまで単発で取り組んできた NIE 実践を相互に関連付けて体系化することにより、生徒により高い学習効果を与える試みを行った。

今回報告する NIE 実践の対象生徒は本校特色選抜入試で入学した 1 年生 30 名である。これら 30 名の生徒を本校では「コミュニケーション類型」と呼称し、1 年次に「総合的な探究の時間」の代わりに学校設定科目「コミュニケーション基礎（1 単位）」を受講する。本稿ではこの科目において行った NIE 実践について報告する。

2 実践について

文字による情報伝達は、文章表現によってその内容理解が大きく変化する。特にグローバル化が進む日本において、母語となる日本語を正しく理解し、より伝わりやすい形で文章表現することの重要性は今後増すばかりであると考え。そこで生徒が新聞記事を「やさしい日本語」を用いて書き直すことにより、母語である日本語についての理解を深めるとともに、文章の要点を簡潔明瞭にまとめ視覚的にも効果的に情報

が伝達される文章表現を日常的に意識できるようになることを目的とする。

「コミュニケーション基礎」における NIE 実践の流れを以下に示す。

① 新聞読み方講座（1 回）

※新聞購読 9 日間を含む

② ひょうご新聞感想文コンクール

（夏季休業課題）

③ やさしい日本語書き換え講座（4 回）

2-1 新聞読み方講座（R3. 6/25 1 回）

朝の読書の時間（毎朝 8:30～8:40）を活用し、9 日間（R3. 6/21～25, 7/13～16）地元新聞朝刊を購読することで、生徒に新聞に対する興味関心を持たせた（写真 1）。この新聞購読期間中に三好正文シニアアドバイザー（神戸新聞 NIX 推



写真 1 新聞購読中の様子

進部）による『新聞読み方講座』を実施し、新聞の持つ社会的役割や記事見出しの重要性などについて学習した。また、この講座の様子を伝える記事が後日同紙朝刊に掲載されたため、こ

の記事を生徒に読ませることで、自らの体験が記事になる過程と新聞の持つ表現の効果について考えさせた。

2-2 ひょうご新聞感想文コンクール

(夏季休業課題)

生徒が新聞紙面に目を通すだけでなく、興味を持った記事に関してその内容を掘り下げて熟読させることを目的に、「ひょうご新聞感想文コンクール(神戸新聞主催)」へ参加した。感想文を書くための新聞記事は、9日間購読した地元新聞または家庭で購読している新聞より興味を持ったものを活用した。

新聞感想文は夏季休業課題として課した。生徒は自ら選んだ記事に自分の意見を交えて感想文の形にまとめることにより、より相手に伝わる文章の表現力等について考えた。

提出された新聞感想文は授業担当者が校内選考を行い、2作品を「第12回ひょうご新聞感想文コンクール」に応募した。

2-3 やさしい日本語書き換え講座

(R3.9/10, 9/17, 9/24, 10/8 計4回)

これからの社会のグローバル化を見据え、生徒が日常的に小さな子どもや日本語を母語としない他者の観点で日本語を捉えることを目的とし、「やさしい日本語」を用いた新聞記事の書き換えを行った。

生徒が興味を持った新聞記事(「ひょうご新聞感想文コンクール」応募用に残った記事を活用)について「やさしい日本語」を用いてA5用紙にまとめ、その発表まで行った。講座全体を通して、アドバイザーとして塩川雅美特任教授(大阪市立大学 高等教育研究院)を迎え、指導助言をいただいた。

1回目 「やさしい日本語」講義 (R3.9.10)

塩川雅美特任教授の講義を通して、多文化共生社会における「やさしい日本語」の必要性について考えた。「やさしい日本語」のポイントと

なる「ワセダ式ハサミの法則」(わけて言う、せいで言う、だいたんに言う、ハッキリ言う、さいごまで言う、みじかく言う)について学習した。

講義の中で生徒は5人ずつ6つの班に分かれ、話し合いながら「やさしい日本語」の書き換え体験を行った。実際にある班が、

①令和3年 ②2021/9/10(金)

③14時~14時半 ④雨天決行

を「やさしい日本語」で書き直しを行った例を写真2に示す。

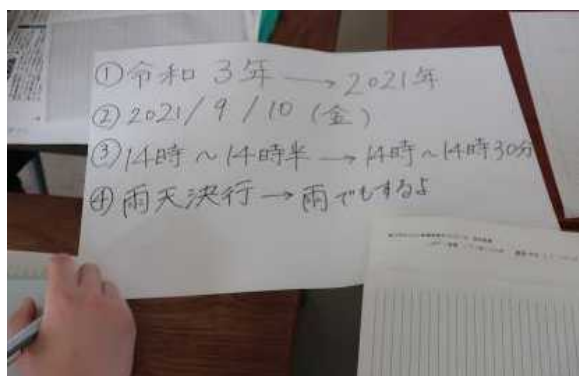


写真2 生徒が書き直した表現

2~3回目 書き換え作業 (R03.9/17, 9/24)

生徒が選んだ新聞記事を元に、その伝えたい内容や要約として必要な箇所を選び出す。そしてその内容を「やさしい日本語」を用いてA5用紙にまとめ直す。この際、新聞紙面を参考に、より内容が伝わりやすくなるように見出しや文言、紙面レイアウト等について検討した。書き換え作業は必要に応じて班内での意見交換やタブレットによる調べ学習を効果的に利用した。特に生徒は「やさしい日本語」を専門に扱うサイト(伝えるウェブ※)を積極的に活用していた。A5用紙はレイアウトの参考となる薄い罫線やマス目が入った「はがき新聞原稿用紙((公)理想教育財団)」を活用した。班ごとの書き換え作業の様子を写真3に示す。

※伝えるウェブ | やさしい日本語で情報発信

(<https://tsutaeru.cloud>)



写真3 書き換え作業の様子

4回目 作品発表 (R3. 10/8)

A5用紙に書き直した紙面(図1)を用いて、各自が興味を持った新聞記事の発表を行った。始めに6つ班に分かれて班内発表(1人2分)を行い、その後各班より代表者1名を選出し、計6名の代表者がプロジェクタで拡大提示された自作品の紙面を用いて全体発表を行った(写真4)。発表で生徒は記事の興味を持った点に触れながら書き換え記事の読み上げを行い、書き換え時の工夫点等を説明した。発表を聴いた生徒の感想は、日報に記入させて回収した。



写真4 班代表者の発表

3 結果と考察

生徒各々が興味を持った新聞記事を活用したことにより、単なる文章の書き換えでなく、

- ・何を伝えたいか
- ・どう表現すれば伝わるか

に軸をおいた書き換えが行われた。書き換え作

業の時間として2時間の設定は少なかったが、それでも生徒は工夫しながら作品を仕上げた。感想等から生徒は「やさしい日本語」を通して、コミュニケーション時に必要な他者配慮について深く考え、新聞の紙面レイアウトから、他者の興味関心を引き出す方法について学んでいたことがわかった。ここで学んだ「やさしい日本語」は、以後の「テーマリサーチ」等の学習活動の中でもレポート作成や発表の中で活用された。書き換えを行った生徒の作品例を図1に示す。

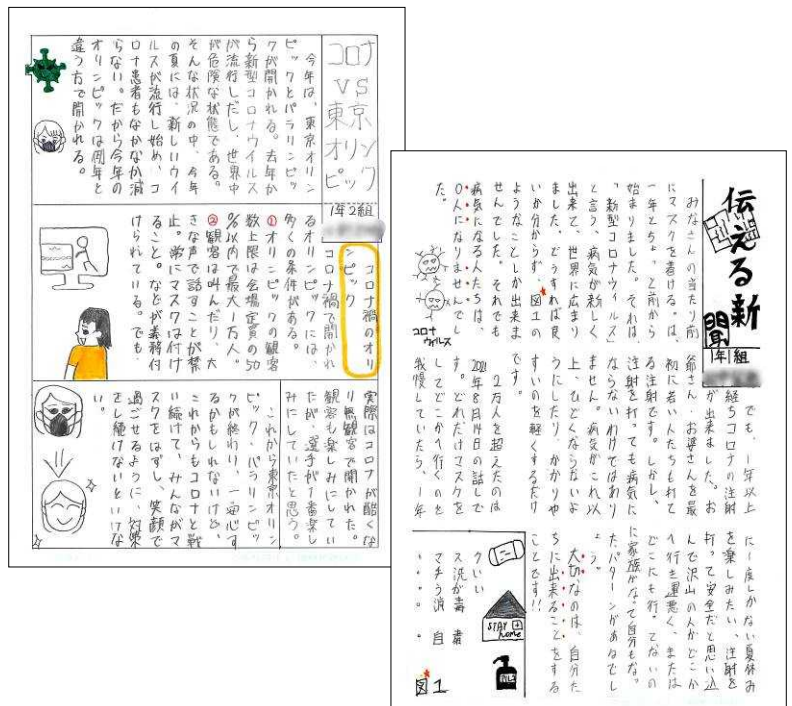


図1 生徒が書き換えた紙面(A5サイズ)

「コミュニケーション基礎」では毎回、生徒に日報の提出を求めている。その内容は、授業のメモや感想・気づきであるが、そこに記された生徒感想を資料1に記す。

資料1 生徒日報の感想(抜粋)

[新聞読み方講座]

今回の授業を通して新聞に対しての見方が変わる瞬間が沢山ありました。簡単に変更できないから誤報になってしまわない様に念入りに下調べをして取材をしないと、私は軽く考えてたん

だなあと感じた瞬間でした。他にも有事のライフラインである事、人命と人権を守る役割を新聞が担っていたなんて初めて知りました。教えてもらって初めて気付く事が多くて今まで何とも思っていなかった新聞に興味を持てた1時間でした。

【やさしい日本語書き換え講座（講義）】

文をみじかく簡単にわかりやすく変えることで、自分も相手もわかりやすくなって読みやすくなりました。少し変えるだけでこんなに変わるんだなと思いました。新聞も簡単に書けるようになりたいです。

【やさしい日本語書き換え講座（作業）】

構成を考えるのが難しかった。やさしい日本語にするべきかどうかの基準が分からなかった。書くのに時間がかかった。

【やさしい日本語書き換え講座（発表）】

日本語を簡単にすることにも、人それぞれの個性が出ていて、なおかつすごく工夫されていました。多くの人の前で発表するのは、少数の前よりも感覚が違い、緊張しました。

4 まとめ

ここまでの NIE 実践報告は、複数の実践内容を関連付けながら体系化して一つにまとめた例である。このように NIE 実践について当初は個々の目的で行った内容に対しても、年度を追うごとに関連付けを行い体系化していくことで、講座としての大きな道筋を得ることが可能となり、継続した新聞活用は生徒にとって取り組みの意欲向上につながったと考える。

本校では今回報告した実践例以外にも、

- ・ NIE ゲームを活用した見出しの表現効果
- ・ 新聞記事から SDGs を考えよう
- ・ 活字を楽しもう
- ・ 面白い広告を作ろう
- ・ 写真の喜怒哀楽を見つけよう

- ・ 新聞各紙を比べよう
- ・ 主権者教育
- ・ 震災教育

など、各学年において NIE 教育に取り組んでいる。実践内容は様々であるが、最近では「新聞記事の授業への活用」に加え「新聞の持つ表現力・情報発信力を学ぶ」ことにも着目している。

本稿で報告している「コミュニケーション類型」では令和3年度、「コミュニケーション基礎」1～3時間の授業につき1号の割合で「類型納得通信(B4両面カラー)」を計14号発行した。この通信は新聞紙面を模して制作しており、その記事は授業の様子、振り返り、補足、感想等からなっている。また同様に、2学年においては毎週「学年通信(B4両面カラー)」を計33号発行し、生徒の日常生活を保護者や教職員に伝えた。これらも生徒の NIE 教育の一環に役立っていると考え。



図 2 類型納得通信（表面）